

最優秀賞



愛知県 新城市 「三郷神社・大人への儀式」
撮影者 加藤 謹一

優秀賞

兵庫県 篠山市
「生長」
撮影者
小川 拓馬



岐阜県 高山市
「はんたいたまご」
撮影者
松尾 和久



熊本県 天草市
「海岸ヨガは
贅沢な時間」
撮影者
(社)天草宝島
観光協会



東京都 府中市
「落ち葉屋さん」
撮影
藤岡 真理子



北海道 札幌市
「春の河畔公園」
撮影者 山内 崇司



沖縄県 中頭郡北谷町
「島唄」
撮影者 米田 善治



神奈川県 横浜市
「まちの流れを記憶する景色」
撮影者 飯田 好昭



高知県 四万十市
「四万十光彩」
撮影者 千葉 洋

五感で楽しむまち フォーラム

あなたは、五感に心地よい「まち」で暮らしていますか。
私たちの「まち」が、いつしか鉄やコンクリートで囲まれ、画一的な景観に変わっていく中で、心地よい暮らしとは何なのか、という問い返しがはじまっています。
緑の大地、心地よい風、花の香り。懐かしく響く、祭りの音。
目にしみる、夕日の光景……。涼しさ、あたたかさ、香り、音、光、味わい。
五感の魅力を発見し、地域の自然や伝統を守り育み、心地よい暮らしをふくらませている……そんなまちづくりの取組を集めました。
そこから、何を大切に、どうやってその魅力を高めているのか、まちに関わる皆さんと考えていきたいと思います。

主催 環境省

共催 東京商工会議所、社団法人 日本アロマ環境協会、NPO法人 日本エコツーリズム協会

平成23年3月8日(火) 13時30分～16時30分
新宿明治安田生命ホール

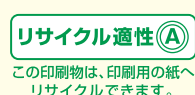
プログラム

- 🕒 13:30……………開会挨拶
- 🕒 13:35～14:15…基調講演「元気なまちづくりをめざそう・五感の再生」
●進士 五十八 東京農業大学名誉教授/前学長、早稲田大学大学院客員教授
- 🕒 14:20～15:20…鼎談「まちづくりでの“五感”の生かし方」
●進士 五十八 東京農業大学名誉教授/前学長、早稲田大学大学院客員教授
●桐谷 エリザベス フリージャーナリスト、NHKアナウンサー
●山下 柚実 作家、五感生活研究所代表
- 🕒 15:30～16:30…五感で楽しむまち大賞/写真大賞表彰式
●表彰状授与式 ●受賞者による取組紹介

※プログラムの時間は、変更になる場合があります。

展示 ●「五感で楽しむまち写真大賞」入賞作品 ●共催3団体紹介

五感で楽しむまち大賞 ▶ <http://www.env.go.jp/air/sensory/taisho/>



五感で楽しむまち大賞

環境大臣賞

飛騨を感じるスローサイクリング

取組名 飛騨里山サイクリング 団体名 株式会社美ら地球(ちゅらぼし)

概要

飛騨のくらしは、町を一步離れた里山にこそ存在します。築100年以上の重厚な古民家をはじめ、朝採り地場野菜を味わえるマルシェ、畑仕事に出るおじいや玄関先で野菜を洗っているおばあ、古くから使われてきた湧水など、昔から続く日常風景がそこには広がっています。

「飛騨里山サイクリング」は、地元に通じたガイドが飛騨のナチュラルな魅力を案内する、少人数のサイクリングツアーです。普通のツーリストは通らないような飛騨の細道をスローにめぐり、行く先々で出会う飛騨人(ひだびと)と旅人をつなげています。

このように、今そこにある観光資源を知ってもらうことが、新しい飛騨旅のスタイルです。自分たちの住む地域にできるだけ負担をかけないことで、伝統的な飛騨のクオリティを維持しつつ、持続可能なまちづくりを推進しています。

<http://www.satoyama-cycling.com/>



出演者プロフィール(敬称略)



進士 五十八
(しんじ いそや)
東京農業大学名誉教授/前学長、
早稲田大学大学院客員教授、
五感で楽しむまち大賞審査委員長

1944年京都生まれ。現在、日本学術会議環境学委員長、国土審議会特別委員、(財)水と緑の惑星保全機構理事長ほか。日本農学賞、読売農学賞など受賞。紫綬褒章受章。

著書に『アメニティ・デザイナーほんとうの環境づくり』(学芸出版社)、『グリーン・エコライフ』(小学館)、『日本の庭園』(中公新書)ほか多数。



桐谷 エリザベス
(きりたに えりざべす)
フリージャーナリスト、
NHKアナウンサー

アメリカ・マサチューセッツ州ボストン出身。ホイートン大学卒業。ハーバード大学医学部で心臓と肺の研究を行うと同時に同大学附属病院で血液専門家として働く。1979年、来日。現在は東京・台東区谷中に在住。全国、地方、地元の観光やまちづくりに関する各種委員会で活動中。著書『消えゆく日本』(丸善ブックス)で日本文芸大賞ルポライター賞を受賞。



山下 柚実
(やました ゆみ)
作家、
五感生活研究所代表、
五感で楽しむまち大賞審査委員

1962年東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。身体と社会との関わりに関心を持ち、美容整形、エイズ問題、五感などをテーマに取材し、ワークショップや講演活動を展開中。第一回小学館ノンフィクション大賞優秀賞。環境省「感覚環境の街作り検討会」委員。

著書に『客はアートでやってくる』(東洋経済新報社)、『<五感>再生へ』(岩波書店)、『都市の遺伝子』(NTT出版)、『五感で楽しむまちづくり』(学陽書房・共著)ほか多数。

【ユズジャーナル】
<http://www.yuzumi.com/>

環境検定合格者賞

エコピープル賞

五感を使って宍道湖・中海の環境をみんなでチェック!湖を大切に思う気持ちを育む

取組名 五感指標を利用した湖沼環境モニター調査 団体名 島根県環境生活部環境政策課

概要

島根県の宍道湖と島根県・鳥取県にまたがる中海は、日本を代表する汽水湖です。湖沼環境はCODなどの科学的指標で評価するのが一般的ですが、宍道湖・中海では、誰でも簡単に五感を使って評価できる独自の指標を作り、公募でモニターとなった幅広い世代の方々と定期的に湖沼環境調査を行っています。

http://www.pref.shimane.lg.jp/shinjiko_nakaumi/kosyou_kankyo_monita/

湖水の澄み具合、ゴミのあるなし、景観、音、臭気、湖の魚を食べてみたいか、水に直接触れたいかどうかなどのチェック項目でモニタリングし、多くの方々に五感を通じて湖に興味をもってもらうことで、環境保全につなげています。



環境カオリスト賞

京都の山懐で、柚子の香りに包まれた地域づくり

取組名 京都・水尾の恵～柚子を愛する熟年パワー～ 団体名 水尾自治会

概要

京都嵯峨の水尾地区は、古くから柚子の産地として知られています。接木でなく種から育てられた実生の柚子は、水尾の寒冷な気候ときれいな伏流水の恵を受けながら、長い年月をかけて丹精こめて育てられます。

柚子栽培をする方のほとんどは60歳以上で、人口も40名ほど。過疎化・高齢化が進む地域で

すが、自慢の柚子を打ち出したまちづくりを地域一体となって進めていて、ポン酢やゼリーなど柚子を生かした産品づくりも始まりました。

柚子は、初夏には小さな花が香り、夏から青柚子が育ち、11月から12月にかけて完熟します。この時期、地域は柚子の香りが漂います。



エコツーリズム検定賞

お茶の香り・景観、お茶工場やお茶問屋、地域を味わう体験プログラム

取組名 出かけて 出会う 感じる ふじえだローカル旅 団体名 藤枝市観光協会

概要

お茶の産地として知られる静岡県藤枝市。藤枝市観光協会では、五感を使って「体験する」「はぐくむ」をコンセプトに、地域の方々とともに藤枝を味わう体験プログラムを冊子にまとめました。

茶畑の景観、お茶農家さんを訪ねての茶畑や田んぼでの農業体験をはじめ、お茶工場の

http://www.fujieda.gr.jp/tabiiiku2010_vol.1/index.html

見学、歴史あるお茶問屋の仕事体験、お茶の味わいなど、藤枝ならではのまちの魅力を引き出し伝えています。

地元中学校では「歩いてまちを知るプログラム」として、ガイドとフィールドワークする授業も展開するなど、藤枝市を訪れる旅行者と地元住民に向けて展開しています。



審査委員特別賞

まちの記憶をみんなでこする、フロッタージュでつくるアートプロジェクト

取組名 町の記憶PROJECT 南千住1000枚の記憶 団体名 千住すみだ川

概要

モノの表面に紙を置き、色鉛筆でこすって表面の凹凸を写し取る「フロッタージュ」。東京荒川区の南千住で、現代美術家の酒百宏一氏と地域住民が取り組むのは、まちの歴史を残す地点をフロッタージュし、1万枚集めるプロジェクトです。

江戸時代は北の玄関口として、昭和にかけて

は工場の町として栄えた南千住は、隅田川の橋や水運拠点の名残り、街道の痕跡、神社やお寺、鉄道や町工場の面影など、さまざまな歴史の一面を残しています。

これまで写し取ったフロッタージュは2700枚以上、1500名を超える参加者がありました。

